

## 是彼員会

## NYで出会った「最後の手紙」を歌う男たち

## 早春に届いた一通の手紙

まだ寒い早春に、一通の分厚い手紙が届いた。普段メールですませる暮らしになって手書きの封書はめったに來ない。差出人はメーカー勤務のころ仕事のイロハを叩き込んでくれたボスからだった、何だろう、とボスの年齢を数えながら開封した。87歳になったはずだ。

ゲラ刷りのコンサートのチラシが同封されていた。

用件は「カーネギーホールで歌うことになった、その時アメリカに在るなら、來ないか」との誘いだっただ。

かつてのボスは世界中をエネルギーギッシュに飛び回る仕事人であつた。面倒見がよく、大学時代グリークラブで鍛えた歌は並はずれてうまかつた。

アマチュア合唱団に所属し、今も演奏会に出演、NYに行くという。その若さと行動力に驚いた。

私はこの時期アメリカに在るので、友人のアメリカ人夫妻を誘いニューヨークの演奏会を楽しみに参加する旨の返事をした。ボスが所属する合唱団は「六本木男声合唱団ZIG-ZAG」。

この合唱団は1999年エイズ・チャリティー・コンサートのために特別編成された20数名の政治家、企業家、医師、弁護士、文化や芸術の分野で活躍する著名人による「元美少年合唱団」として発足したそうだ。

その後「六本木男声合唱団倶楽部」として再スタートし作曲家家の三枝成彰さんが団長として指導している。

合唱団のメンバー、20代から

80代までのアマチュアメンバー104名が毎週1回練習に励んでいる。

この合唱団は国内外で演奏活動している。

国内は、サントリーホール定期公演、東京カテドラル聖マリア大聖堂で三枝成彰「レクイエム」の定期公演、東京マラソンでは初回から国歌斉唱を行っている。

海外はウィーン、ベルリン、ハバナ、モナコ、パリ、ミラノ、バチカンなどで公演してきた。

### 「最後の手紙—The Last Message」

合唱団が世界各地の演奏会で披露している歌は「最後の手紙」。

この作品はドイツ人、ハンス・ワルター・ベアが第2次世界大戦で戦死した31か国202人の

兵士が残した手紙を集めた『人間の声』（高橋健二訳編、河出書房新社）が原作。

作曲家の三枝さんが東京芸術大学の学生時代に、この本に出会い深く心を揺さぶられ、いつか曲にしたいと思ひ、西洋音楽史上あまり例がないオーケストラ付きの男声合唱曲を完成させ、2010年の合唱団10周年記念に初演している。三枝さんが発意して50年、宿願を果たした作品だ。

戦争を憎み、平和を望み、祈る、全人類がその姿勢を共有しよう、との願いを曲に込めたという。

合唱曲は13曲（12か国13人の手紙）で構成されている（『最後の手紙—男声合唱版』三枝成彰作曲、全音楽譜出版社）。13人の手紙の一部を紹介すると…。

レジスタンスで捕まり処刑された、フランスの16歳の少年の「最後の手紙」は「兵士たちが僕を連れに來ます。僕の字は少し震えていて、読みにくいかも

しれません。それは鉛筆が短い  
せいですが。死を恐れて怯えてい  
るではありません。ささやかな  
蔵書はお父さんに。思い出の  
コレクションはお母さんに。一  
生懸命勉強した教科書は弟に。  
大切な日記は愛しいジャンヌに  
贈ります」。

中国兵は「服に涙が落ちる。  
誰も過去の日々を忘れることな  
ど出来はしない。母に別れを告  
げなければならぬ時が来る」。  
日本兵は妻に「日曜日の朝、  
思うのはいつもお前のこと。お  
前のまつげにそっと触れ、静か  
に抱いていた。日傘をさし、  
青いプリントのワンピースを着  
たお前の夢を見た」。

アメリカ兵は「戦争は地獄だ、  
地獄だ」と叫び、イギリス兵は  
「神よ、僕たちに力を与えてく  
ださい。僕たちが造ったものが  
世の中の役に立つものとなり、  
決して僕たちの支配者にならな  
いように」と訴えている。

手紙に共通しているのはみん  
な若くして亡くなり、まだ見ぬ  
わが子や、妻、そして母を想い、

戦争という不条理を訴えながら、  
平和を、それもささやかな日常  
的平和を願っていた。

戦場の悲惨な現実、兵士たち  
の切ない希望と絶望の声を生々  
しく伝えることで、残酷な戦争  
とそれによって愛する家族や恋  
人との絆が裂かれることが2度  
と起こらないよう、この作品を  
通じて、世界に平和をもたらす  
ことを願っ

た三枝さん  
は「なぜ戦  
争が起ころ  
のか、なぜ  
今も戦争は  
続くのか」  
を原始の人  
間の歴史な  
ども紐解き  
ながら考え  
抜いて作曲  
したという。



### カーネギーホール

ニューヨーク、マンハッタン  
にあるカーネギーホールは鉄鋼  
王アンドリュー・カーネギーに

よって1891年に建てられ、  
こけら落としにはチャイコフス  
キーが自ら出演し、音楽家やエ  
ンターテイナーにとってはあこ  
がれの聖地。

カーネギーホールには有名な  
ジョークがある。  
世界的なピアニスト、ルービ  
ンシュタインがカーネギーホー  
ルの付近を歩いていたとき、有  
名なピアニストと知らない  
通行人から「すみません、  
カーネギーホールへはどう  
やったらいきますか？」と  
尋ねられた。彼は即座に  
「一に練習、二に練習、三  
に練習です」と答えたとい  
う。

演奏当日、2800席の  
大ホールが日米など多くの  
人でうまった。  
一部は国連職員の合唱団、  
さまざまな民族衣装をまとい、  
各国の歌を歌った。

二部が「最後の手紙」、歌に  
出てくる12か国の大使家族や職  
員家族や友人も参加していた。  
合唱団は大友直人さんが指揮

する東京フィルハーモニー交響  
楽団80名の演奏で、アマチュア  
とは思えない豪華な演奏会であっ  
た。合唱団は団員104名中、  
実に101名がはるばるニュー

ヨーク公  
演に参加  
していた。  
団員は  
猛練習で  
この日に  
臨み、海  
外演奏会  
費用も全  
て合唱団  
員負担で準備したそうだ。



### いのちのメッセージを 歌いあげる

13曲でなる13通の「最後の手  
紙」は、各曲の合唱の前にフレッ  
ド・カタヤマさんのナレーション  
があり、舞台上のスクリーン  
に、それぞれの「最後の手紙」  
が映し出された。

フランス、日本、アメリカ、  
ブルガリア、ポーランド、イタ  
リア、中国、英国、朝鮮、ロシ

ア、ドイツ、トルコ、そして日本の順に歌でつづる。

合唱は朗読のように歌詞に旋律をつけ、ときにはミュージカルのように歌う。

戦場で死を前にして書き残した手紙、家族、母親への愛をつづる手紙、処刑を前にした最後の手紙。日本人の2通の手紙は、ルソン島で戦没した35歳の兵士が妻へ宛てた手紙。もう一通は終戦後、軍事裁判にかけられフィリピンで銃殺刑となった28歳の兵士が家族に宛てた手紙。

戦争がいかに残酷で、家族や恋人との絆が引き裂かれた言葉にあふれ、「死」「罪」「悲しみ」が重厚に歌われた。

演奏は休憩時間がなく一気に行われ、1時間40分の演奏の最後は合唱団員の熱き平和への願い、12か国語で「私たちに平和を下さい」とスクリーンに表示され、曲は低いチェロの音が静かに緩やかに、亡くなった兵士たちの魂を慰めるように、流れた。

スクリーンにはさらに、第2

次世界大戦でのおびただしい犠牲者数が各国別に次々表示され、「全世界で7千万人が亡くなった」と数字が冷酷に浮かび上がった。

聴衆は最後まで熱心に耳を傾け、会場の全員が総立ちとなり、心からのスタンディングオベーションがいつまでも続いた。作曲家、三枝さんの「残酷な戦争で家族や恋人との絆が、2度と引き裂かれないことを願っています」「合唱団全員の、いのちのメッセージ」をお聴きいただきたい、これが団員の願いです」が届いた感動的な瞬間であった。

### これからこの曲を歌い続けたい

合唱団のメンバーは「音楽を通じて、戦争の悲惨さを改めて認識し、訴える意義があると思いたい、これからもこの曲を歌い続けたい」「歌い始めたときは、歌詞を覚えるだけで精いっぱい。しかし、歌うにつれ、歌詞の重みや意味、そしてメロディの意味が分かるようになり、内容の

重さを超えたところになにか希望のようなものが感じられるようになる」と話していた。

三枝さんは今後公演をしたい都市はどこか、という問いに「やっぱり北京とか、平壤、ソウルですね」と答えた。

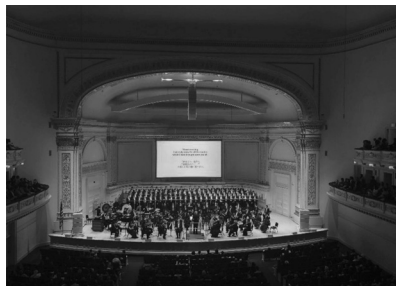
六本木男声合唱団はかつての激戦地を訪ね慰霊の歌を捧げる活動もしていて、レイテ島（フィリピン）、ルソン島（フィリピン）、ガダルカナル島（ソロモン諸島）、ペリリュー島（パラオ）、クエゼリン（マーシャル諸島）などを訪問しており、11月にはミャンマーで「密林に吠える」戦没者慰霊の献歌を行うという。

重さを超えたところになにか希望のようなものが感じられるようになる」と話していた。

### 歌う男たちの願いも国際善隣

#### 国際善隣

マンハッタンで出会った合唱団101人の歌を通じた心からの願いは多くの国の聴衆の心を



打ち、まさに国際善隣であった。昨年は日中国交正常化46年、日韓国交正常化53年、日米交流155年、日仏友好160年。たとえ小さなかけ橋、小さな活動であっても、芸術・学術・スポーツ・旅行・社会など人々の往来や交流が活発になれば国際善隣はさらに広がるだろう。あらためて国際善隣協会のスピリッツを読んでみた。

……「動乱の前世紀の歴史を教訓として、近隣諸国民との民間交流と相互理解に努め」「我が国そして世界の平和と進歩への貢献」に関心の深い方々の参加で「近隣諸国との友好親善に貢献する」……国際善隣協会のス

ピリッツに共鳴した会員の多様な活動で、これからも近隣諸国の一人でも多くの人の心に届けたいものだ。